



JMOOC講座 開講事例紹介

第1弾講座「国際安全保障論」 講座運営学内支援体制および運営報告

早稲田大学JMOOC事務局
2016年1月8日(金)



早稲田大学 大学総合研究センター
Waseda University Center for Higher Education Studies



目次

1. 実施概要
2. PV紹介
3. 受講者アンケート結果紹介
4. 運営面の課題

1.実施概要



講座名

国際安全保障論

担当講師

早稲田大学政治経済学術院 栗崎周平 准教授

開講時期

2014年6月16日～7月20日 4週間

修了要件

**クイズ（選択式）+レポート/相互評価=58点以上
（100点満点）（課題は毎週提示）**

プラットフォーム

gacco（NTTナレッジ・スクウェア社）

1. 実施概要



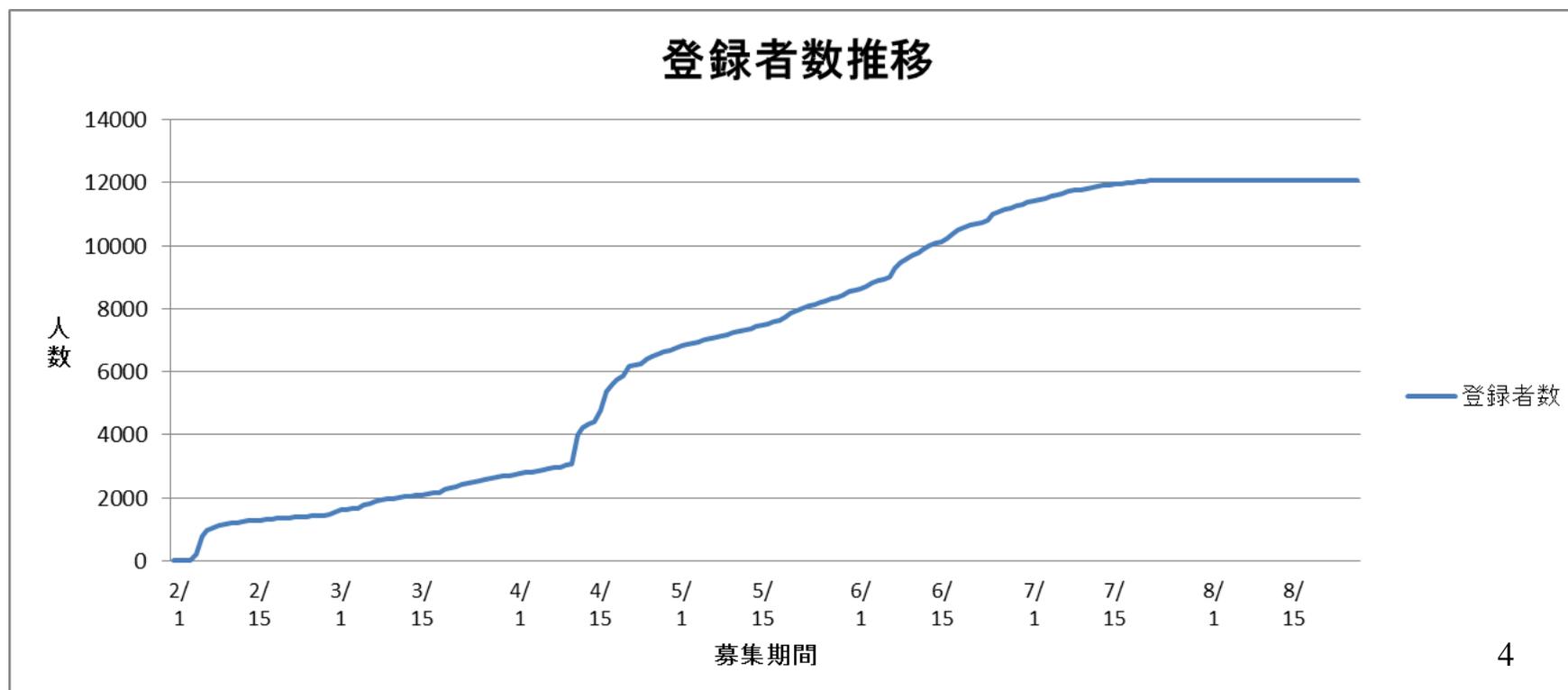
■ 講座運営実績

— 登録者総数：12,068人

(男性57%、女性20%、不明23%)

— 修了者：1,300人 (修了率10.8%)

※参考：満点 (100点) 1人、99点4人、98点10人



1.実施概要



■ 運営体制の主な役割分担

	業務	教員	職員	PF事業者
開講前	コンテンツ収録、字幕作成等	○	△ 第2弾以降は学内にて対応	○ 収録スタジオ利用
	PV収録	○	△	○
	課題、ループリック、小テスト	○	△ 調整業務	○ 設置
	受講者アンケート		○	○
開講中	ディスカッション	○ 講座内容に関わること	○ チェック対応	△
	レポート／相互評価		○ 未評価対応等	
閉講後	成績優秀者対応		○	
	学習成果分析		○ 助手が主担当	



2. JM00C講座 国際安全保障論

PV紹介



3. 受講者アンケート結果紹介

3.受講者アンケート結果紹介



■ 受講者アンケート結果

◆ 受講前アンケート

- 回答者総数：**3,838**人（回答率31.7%）
- 講座受講前にアンケート実施

◆ 受講後アンケート

- 回答者総数：**709**人（回答率5.9%）
- Week 1～4全講座終了後にアンケート実施

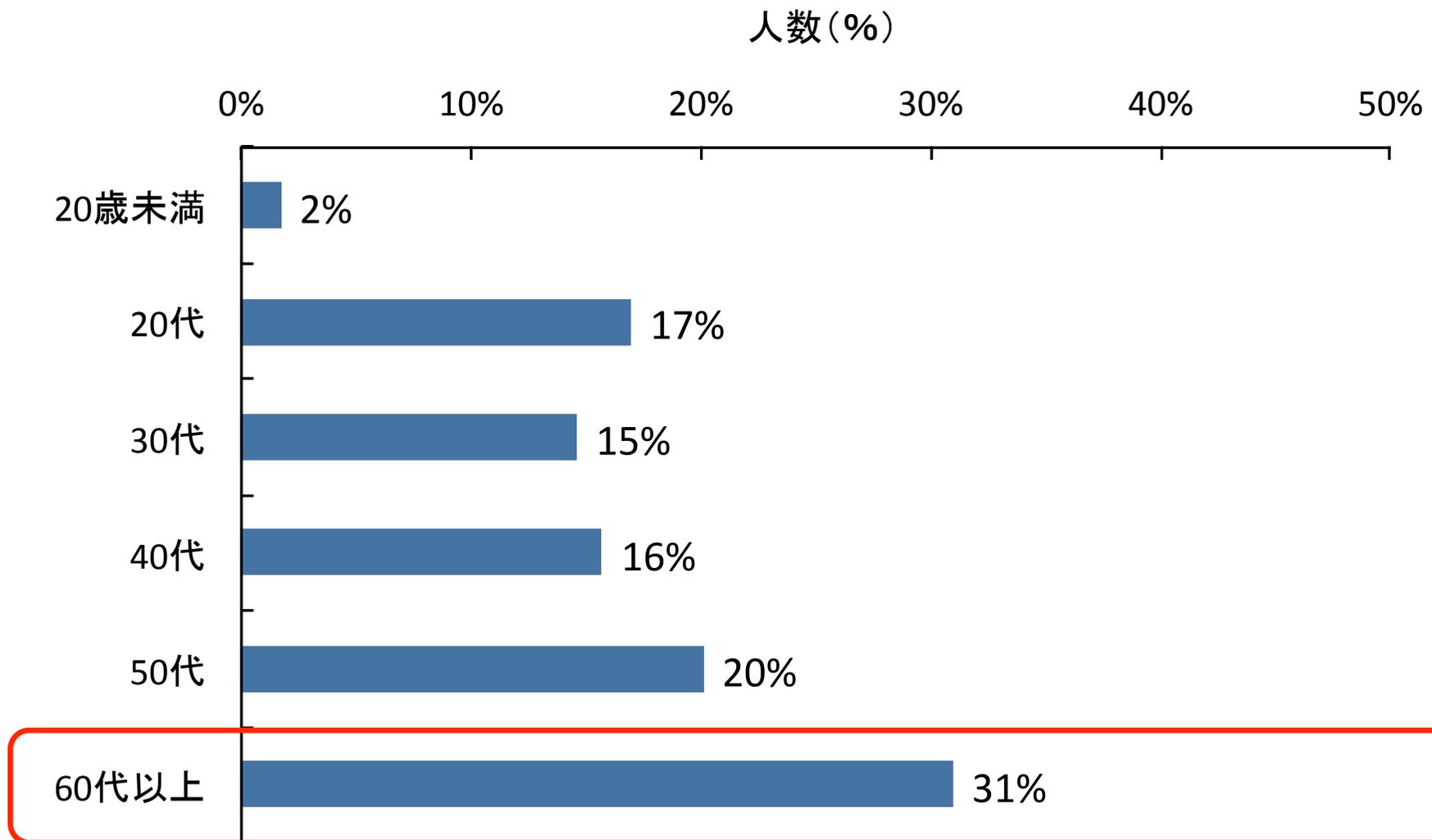


受講前アンケート結果紹介

3.受講前アンケート結果紹介



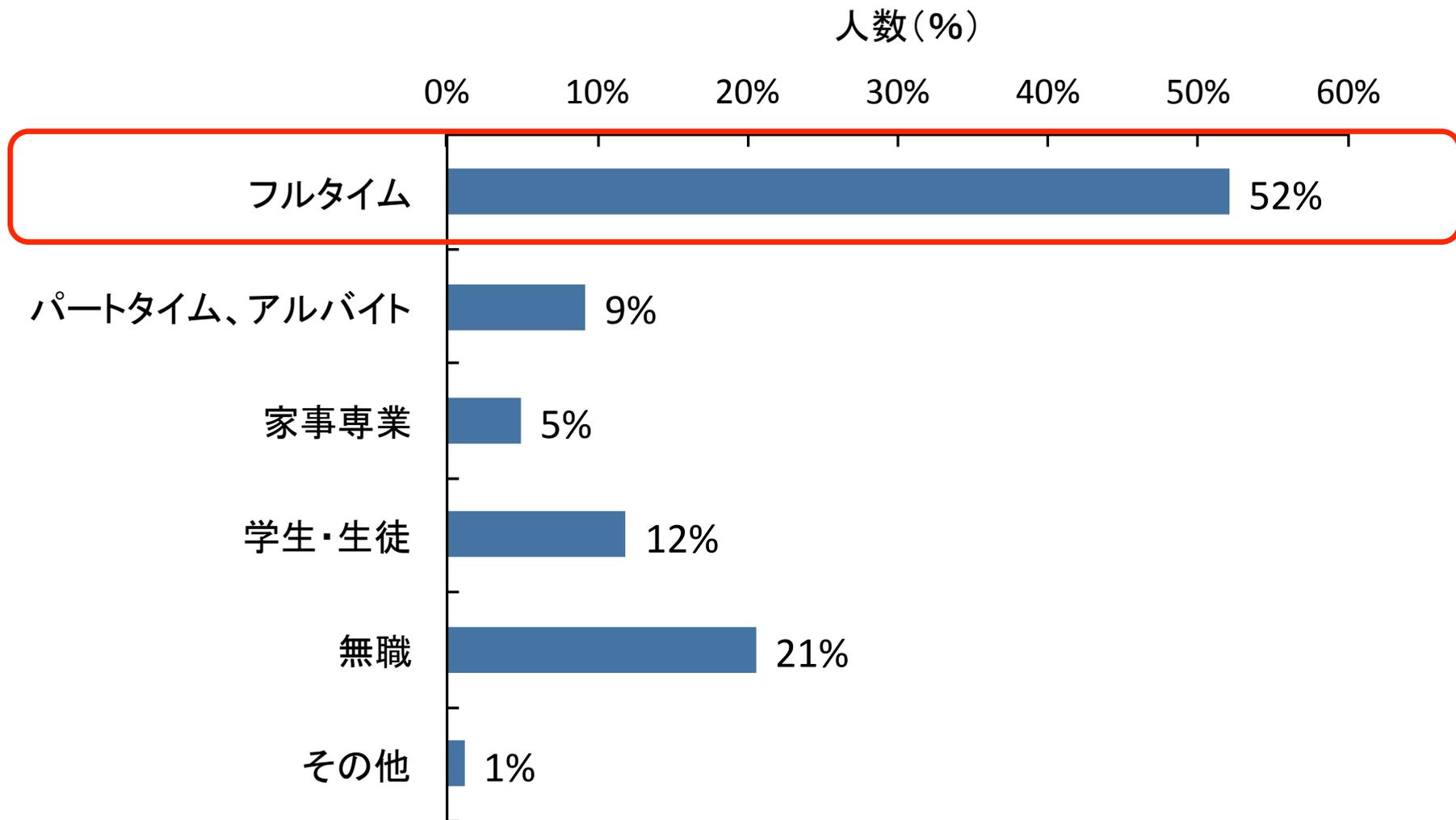
■ 年齢層



3.受講前アンケート結果紹介



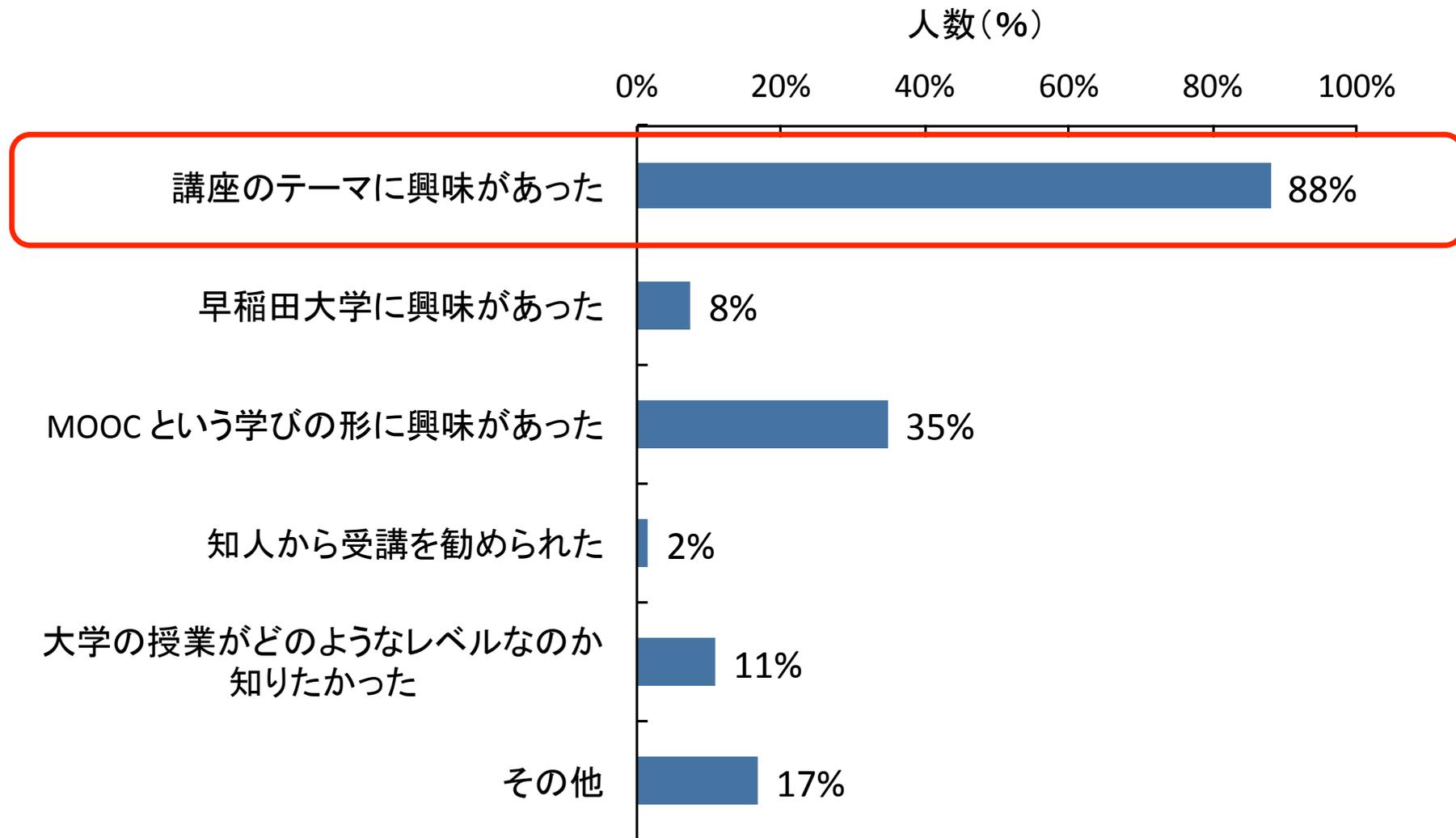
■ 職業・勤務形態



3.受講前アンケート結果紹介



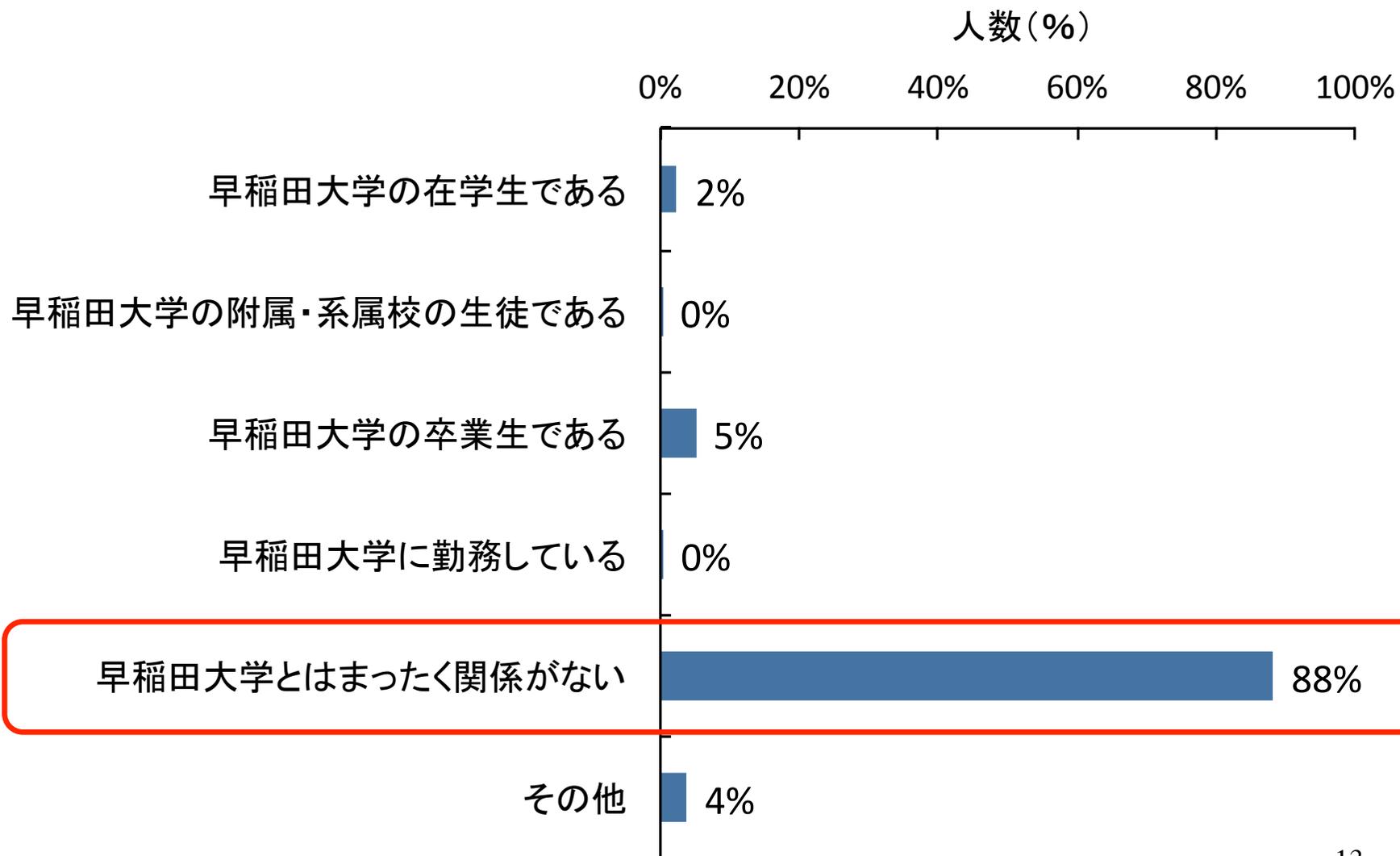
■ 受講動機 ※複数回答



3.受講前アンケート結果紹介



■ 早稲田大学との関係



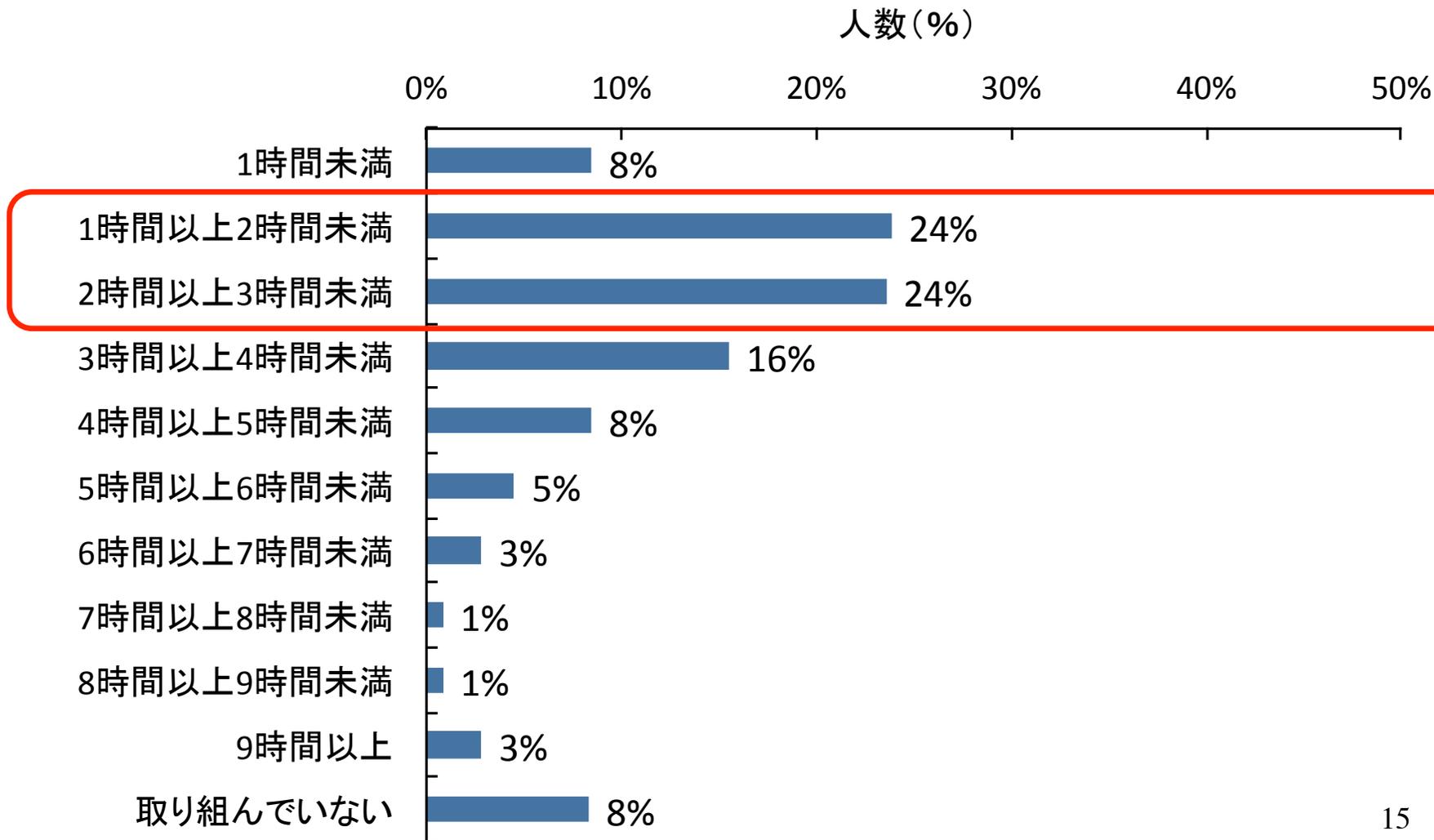


受講後アンケート結果紹介

3.受講後アンケート結果紹介



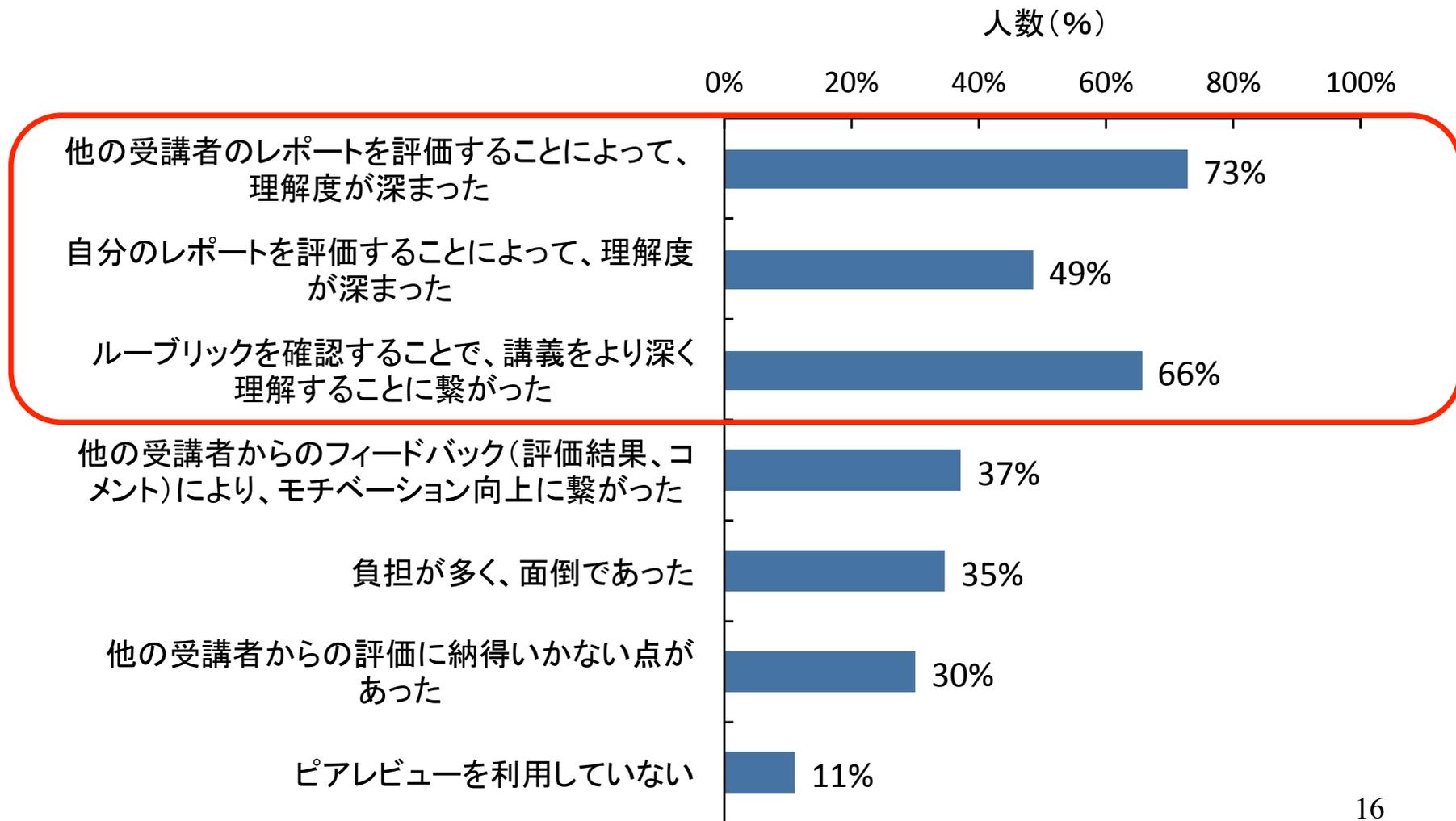
■ 各週のレポート課題（相互評価）に取り組む際に、どのくらい時間をかけましたか。



3.受講後アンケート結果紹介



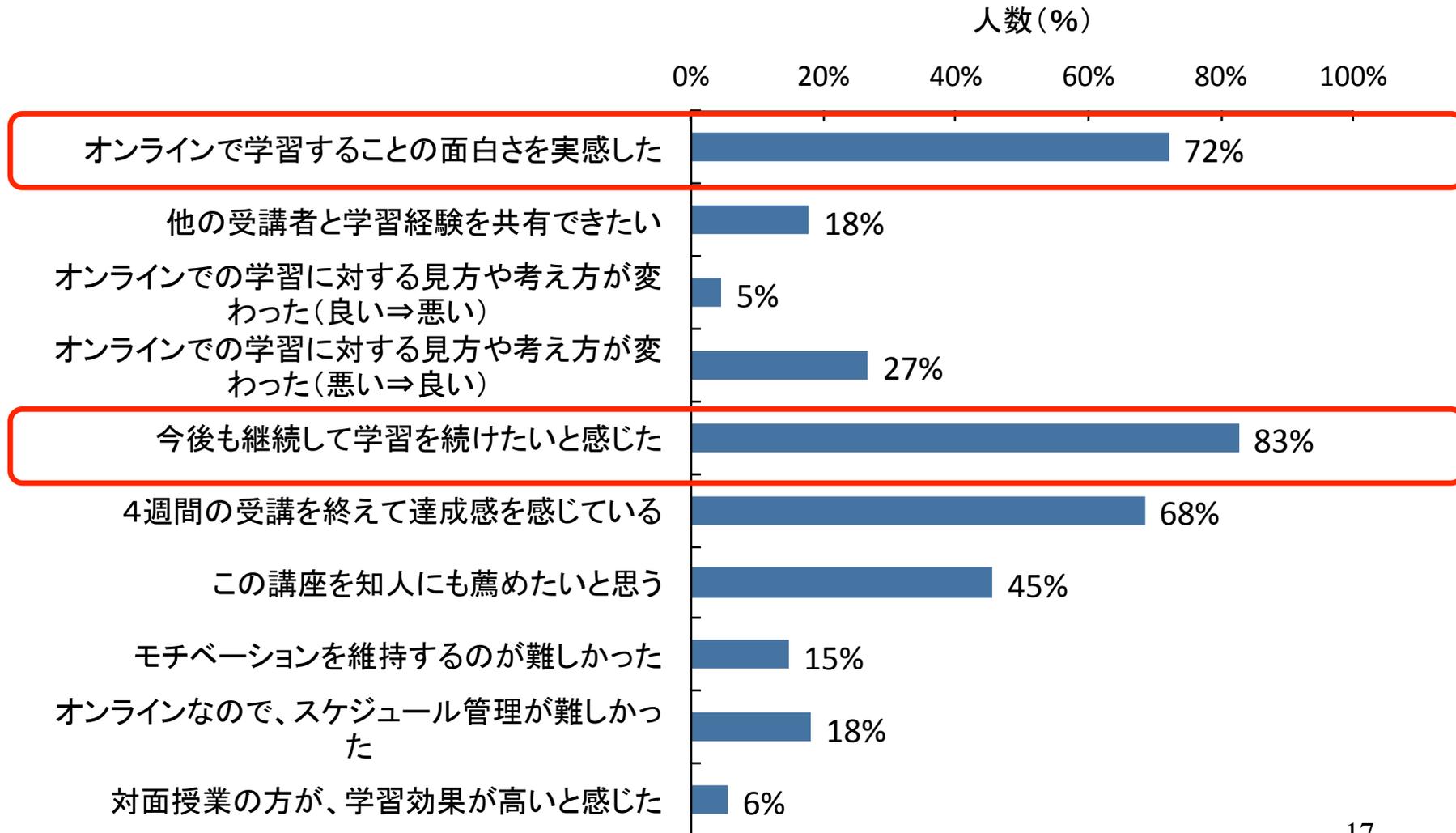
- 相互評価について、以下の選択肢よりあてはまるものすべてにチェックを付けて下さい。※複数回答



3.受講後アンケート結果紹介



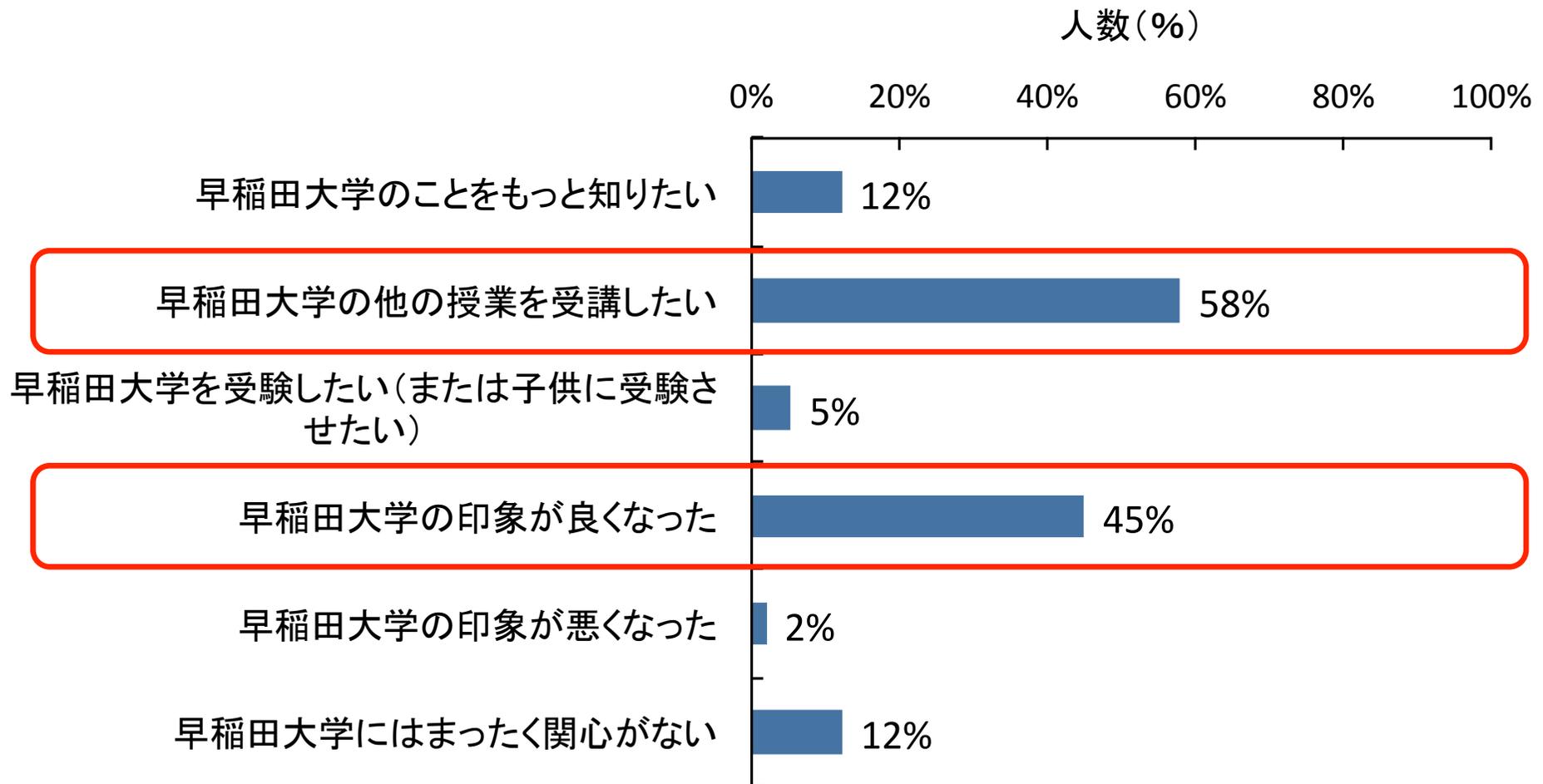
■ 本講座の受講を終えて、どのような感想を持ちましたか。 ※複数回答



3.受講後アンケート結果紹介



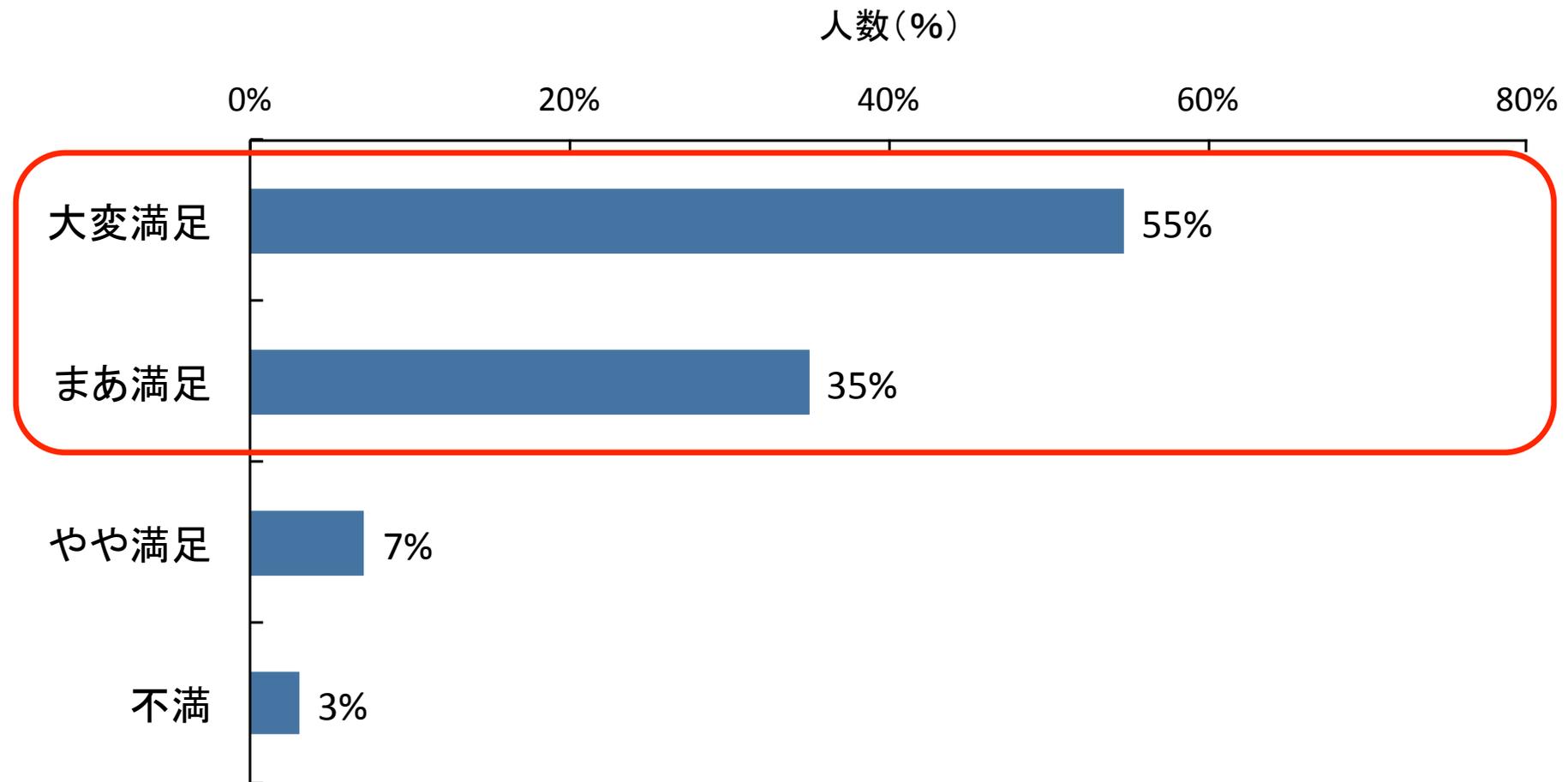
- 早稲田大学に対する印象について、あてはまるものを全て選択してください。※複数回答



3.受講後アンケート結果紹介



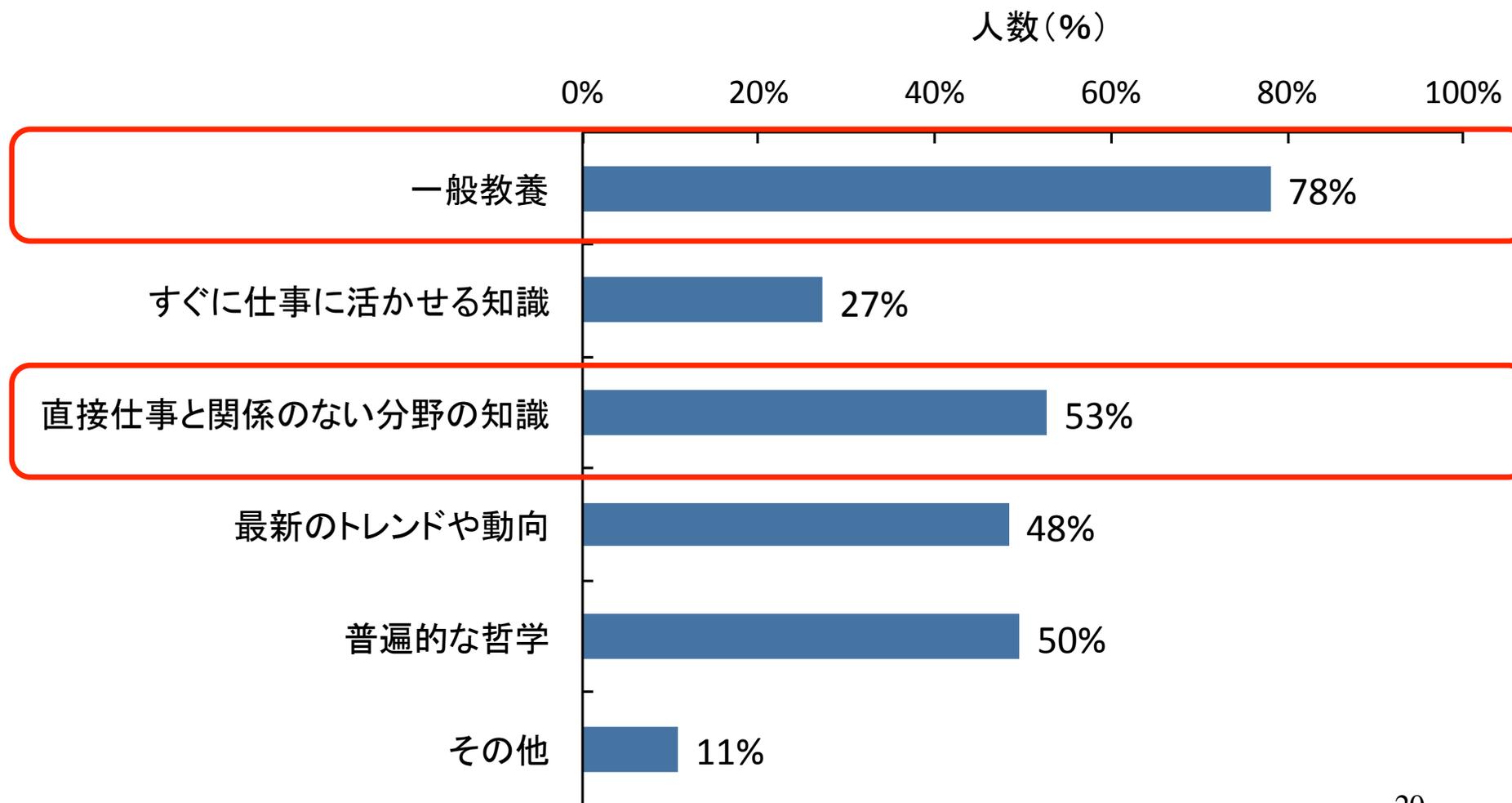
- 今回受講した講座に対する満足度をお答えください。



3.受講後アンケート結果紹介



■ オンラインによる学習を通して、どのような分野の学びを続けていきたいと思いますか？ ※複数回答





4. 運営面の課題

4.運営面の課題



■ 「自己評価忘れ」による未評価レポート発生

– レポート課題の完了要件

レポート提出 → 他者評価 → 自己評価 → 他者からの評価
(4ステップ)

– **自己評価**を完了しないと、他の受講者から**評価されない**

– 「自己評価忘れ」が多く、未評価のレポートが多数発生

– 協議の上、**評価フローチャート掲示、お知らせ・メール周知**を行うとともに、Week1・2に限り、「自己評価」の**締切延長を実施**

★今後の課題 ⇒ 完了要件の**事前周知**を徹底



■ 成績未確定者への対応

- 成績確定には、他の受講者3人からの評価が必要
- 学習システムの仕様上、課題（4ステップ）の締切は、
すべて同日

※レポート提出 → 他者評価 → 自己評価 → 他者からの評価

- 期限間近に、他の受講者からの評価されていない受講者
（成績未確定者）が毎回発生（各回30～40人）

※協議の上、自己評価までを行った受講者には救済措置を実施

★今後の課題 ⇒ 「レポート提出」締切後に、「他者評価以降のステップ」締切を設置し、2段階のスケジュールで課題に取り組めるよう、学習システムの仕様変更ができないか



第1弾講座の開講事例紹介は以上です。

続いて、第2弾講座の開講事例を
ご紹介します。